

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0770200814		
法人名	特定非営利活動法人 カオス		
事業所名	グループホーム こすもす		
所在地	福島県会津若松市神指町黒川湯川東228番地 (電話)0242-24-9711		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	平成19年12月26日	評価確定日	平成20年2月27日

【情報提供票より】(2007年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月31日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	5人, 非常勤 4人, 常勤換算7.75人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,200円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 300円
	夕食	400円	おやつ 200円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2		3名	
要介護3	3名	要介護4		2名	
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 79.2歳	最低	75歳	最高	87歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	入澤泌尿器内科クリニック、大塩歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員はホームの理念を基にケアサービスに努め、利用者や職員の表情は明るく穏やかで生き生きしている。利用者には毎日の暮らしの中に楽しみや役割があり、利用者一人ひとりの残された力が自然に発揮できるように、職員は利用者が1日1回主役になるよう出番を作っている。また、利用者が役割等を行った後は、職員は必ず感謝の気持ちを伝えており、利用者の達成感や活力となっている。一日の過ごし方は介護計画に連動させ、起床や食事の時間帯は、その人の生活パターンにあわせて生活が送られるように支援している。管理者は、家族や職員から出された意見や気づきは真摯に受け止め、職員の考えや意見を業務に反映させている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果を踏まえ、改善課題は職員で話し合っており取り組んだ。「介護計画の見直し」は、状態変化に応じて期間設定にとらわれず随時見直しをしている。「注意の必要な物品の保管・管理」は、刃物をケースに入れて保管している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価の内容を項目ごとにわかりやすく職員に説明し、全職員で話し合っており取り組んだ。自己評価を行うことで日々のサービスの振り返りになり、ケアの見直しの機会になった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議の参加メンバーに年間の開催実施予定表を配布し定期的に会議を開催し、ホームの近況報告をもとに話し合いを行っている。前回の外部評価結果について報告し、参加メンバーから意見をもらい改善に向け検討している、また、ホームの補修や勤務体制などについても意見をもらい、参考にしながら検討中である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月の利用料金の支払や家族会、面会、通院介助など家族が頻りにホームを訪れる機会があり、その都度意見や要望等を聞くようにしている。また、その結果をミーティングで話し合い、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム便りがきっかけとなり、中学校の行事に招待されたり、毎日食材の買物に行くスーパーの店員と顔馴染みになり言葉を交わしている。また、隣の住民から野菜をいただいたり、ホームの行事に招待するなど関係づくりに努めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で話し合いこれまでの理念を見直した。住み慣れた地域の中で、のんびりゆったりとあたり前の生活の継続を、支援するための理念に作りあげた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現に向け、利用者一人ひとりの持っている力に応じて、一日一回主役(主人公)になってもらい、役割を持って生活を送ってもらえるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム便りを近くの会社や中学校に配布していたことがきっかけとなり、中学校の演奏会に招待されたり、ホームで収穫された野菜を隣の住民にあげたり、住民を夏祭りに招待するなどして交流している。		さらに町内会に加入するなどして、地域の情報を集め、文化祭や祭りなどの行事に参加できる機会をつくってほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価の内容を項目ごとにわかりやすく職員に説明し、全職員でミーティング時に話し合い管理者がまとめた。さらに、自己評価を行うことでケアの見直しの機会にもなった。前回の改善課題はできるところから改善に取り組んだ。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	計画的に2ヶ月に1回会議を開催し、ホームの近況報告をもとに質問や意見を受け話し合っている。区長からは散歩コースの提案や、前回の外部評価結果について、改善の意見を頂くなど、サービスの向上に活かしている。		
6	9				
4.理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭は、ホームで金銭出納帳にて管理し、毎月家族等へ送付している。利用者の状況などは、家族がホームを訪れた時や電話にて随時個々にあわせて報告している。また、広報誌で状況や職員の異動等について家族等に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望で家族会を設けた。行事の協力等通して家族同士で交流している。家族会や利用料金支払、面会など家族が頻繁にホームを訪れている機会に、要望や意見も出している。その場で出された気づきや要望はミーティングで話し合い運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等がある場合は、不安を与えないように代替りの担当者と徐々に慣れさせていきながら対応するよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月1回、認知症についてや口腔ケア等について開催している。外部研修は、段階に応じて全職員が出席できるように支援している。さらに外部研修に参加した人は、ミーティングのときに他の職員に報告し、研修内容を職員間で共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、グループホーム連絡協議会主催の勉強会等を通して同業者と交流している。また、地元の同業者と交流や連携を図り、行事開催時には相互に職員がボランティアとして応援に行ったり、収穫した野菜の交換などを行い、交流を行いながら質の向上に取り組んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で自然に支えあう関係を築いている。職員は利用者から料理や季節の習わしなどを教えてもらう場面が多くある。また、温かい言葉でいたわってもらったり、励まされたりすることもあり、お互いに寄り添いながら学んだり支えあう関係になっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で「一人ひとりの行動や表情から何をしたいのか」「どう過ごしたいのか」を汲み取っている。また、メッセージを送ってくる時の表情なども見逃さないように観察し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めケアに活かしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日ミーティング時に利用者の状況報告や意見交換を行い介護計画に反映させている。また、利用者の思いや意向等を介護計画に反映させ、一人ひとりがゆったりと生活できるように、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の達成状況について職員全員で定期的に話し合い、見直しを行っている。状態が変化した場合は設定した期間にとらわれず、検討会議を開き、随時の見直しを行っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の希望にあわせて、かかりつけ医や協力医の受診支援を行っている。協力医は月2回の訪問診療行ったり、変化があった場合に相談や指示を受けている。発熱や体調不良の場合はすぐ隣の病院も受診できる協力関係を築いている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望を踏まえ、状態変化に応じてかかりつけ医と連携を図り、ホームで対応できるか、できないか職員で話し合い、協力医に助言をいただきながら、方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常生活の中で誇りを損ねない言葉かけに気をつけるように徹底している。不要になった個人情報や薬袋は、シュレッダーにかけ処分するなど記録等の取扱いや保管についても十分配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの暮らしを大切に、起床時間や食事時間等をその時の体調や状況にあわせて対応している。また、指示や押しつけるようなことはせず、ゆったりとその人らしく過ごせるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が毎日スーパーに買い物へ行っている。食事の準備は職員と一緒に調理や盛りつけ、片付けやおやつ準備等、一人ひとりのできるところまでやってもらい、必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。また、職員は利用者と一緒に食事を食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯、シャワーの温度、お湯のかけかたなど、一人ひとりの希望や好みに配慮し、その都度確認しながら入浴を支援している。冬至には柚子湯にするなど楽しく入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	毎日の暮らしの中で利用者一人ひとりに、居室の掃除、洗濯干し等を通して1日1回主役になるよう出番を作り、少しでも力が発揮できるように支援している。さらに、その都度感謝の気持ちを伝えることで、利用者の楽しみや喜びになっている。また、雑誌が話題のきっかけとなり、利用者と一緒に楽しい時間を過ごしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	毎日の生活リズムを大切にしながら利用者の状況に応じて市立図書館や毎日の食材の買物、地域の施設の行事参加や天気の良い日には個別に外出の支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけることはなく、見守りの中で自由な生活を支えている。ホーム便りを近くのスーパーや事業所(会社)等に配布し、鍵のかけないケアの理解をいただいている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的に避難訓練を実施している。職員は誘導手順マニュアルに添って実施し、訓練を行った結果に基づいて手順の見直しも行っている。また、夜間を想定した訓練も実施している。今後は区長や消防団と連携を図りながら、避難訓練を実施していく予定である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医院の栄養士に献立表をチェックしてもらい、アドバイスを受けている。また、献立は利用者の嗜好などに配慮している。一人ひとりの食事量や水分量を記録し、尿回数のない人や水分摂取量の少ない人にはココアやヤクルト等で水分補給を支援している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や掃除は毎朝行っている。共用スペースの窓から景色が良く、季節の移り変わりが感じることができる。また、使い慣れた昔の生活用品を配置し、温かい雰囲気となっていて、居心地のいい空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口の飾りケースの中に利用者の思い出の写真や大切にしている人形、色紙など思い思いに飾り付けをしている。また、利用者が希望するカーテンや膝椅子等を持ち込み、居心地良く過ごせるように工夫している。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(別紙1)を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム こすもす
記入担当者名 逸持治 幸子

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。